令和6年度小松市立那谷小学校　学校評価　１（年度末）

めざす児童生徒像

**未来の創り手となる子の育成**
・自ら学ぶ子（自分の学びや活動をふり返り、生かしながら、よりよくなろうとすることができる）
・共に生きる子（周囲に対してやさしい心で接し、他との対話を通して自他の良さに気づくことができる）
・たくましい子（学校において、新しいことに挑戦したり、粘り強く努力したりすることができる）

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

| | 目標 | 項目 | 目標指標 | 評価達成度アンケート内容・調査項目 | | 中間 数値・アンケート結果（%） 教員 | 児童生徒 | 保護者 | 中間 ※差 | 年度末 数値・アンケート結果（%） 教員 | 児童生徒 | 保護者 | 年度末 ※差 | 達成状況の分析 | 改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校重点項目（学校で設定） | 組織的な学校運営 | 組織力向上 | 全ての項目で、肯定的な回答が80%以上 | | ① | 全職員が共通理解し、実践できるよう担当が分かりやすく伝えている。 | 100 | | | | 100 | | | | ①②③全ての項目で100%との回答となった。学校活動全般の取組で意識したことがわかる。 | **今後も組織的な学校運営をしていくために組織力の向上を目指していく。** |
| | | | | | ② | 前例にとらわれず、多面的・多角的に検討し改善を図っている。 | 85.7 | | | | 100 | | | | | |
| | | | | | ③ | 人材育成（若プロを含む）を念頭におき、職員同士でコミュニケーションを図っている。 | 100 | | | | 100 | | | | | |
| | | | | | | 集計 | | | | | | | | | | |

| | 目標 | 項目 | 目標指標 | 評価達成度アンケート内容・調査項目 | | | | | | | | | | 達成状況の分析 | 改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石川県共通重点項目 | 働き方や業務の改善 | 業務改善 | 1カ月の時間外勤務時間が45時間以下 | | ① | 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。 | 100 | | | | 83.3 | | | | ①の項目において、16.7%減少したのは、削減に意識して取り組んでいるわけではないからである。意識しなくとも、1カ月の時間外勤務時間においては、すべての教職員が達成できている。 | 時間外勤務時間の目標指数は達成できているので、今後は、仕事内容等の業務改善に目を向け、業務改善を目指していく。 |
| | | | | | ② | 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。 | 100 | | | | 100 | | | | | |
| | | | | | ③ | 見通しを持って業務にあたり、２日前までに提案や書類等の提出を行う。 | 100 | | | | 100 | | | | | |

| | 目標 | 項目 | 目標指標 | 評価達成度アンケート内容・調査項目 | | 数値・アンケート結果（%） 教員 | 児童生徒 | 保護者 | ※差 | 数値・アンケート結果（%） 教員 | 児童生徒 | 保護者 | ※差 | 達成状況の分析 | 改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小松市共通重点項目 | 指導力の向上 | 学校研究 | **一人ひとりに確実に力をつけるための学習活動を実践している教員の割合が80%以上** | | ① | 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。 | 100 | | | | 100 | | | | ①②③とも肯定的な回答が、８０%以上だった。他校との協働学習がまだできていなかった学年も、２学期に実施することができた。 | **他校との協働学習は、学年が上がっても継続していけるとよいので、授業を一緒にするだけでなく、成果物を交流したり、行事を一緒にしたりするなど声をかけ合っていけるとよい。** |
| | | | | | ② | 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。 | 100 | | | | 100 | | | | | |
| | | | | | ③ | **資料活用やICT活用、他校との協働学習など多様な考えに関わらせる工夫をしている。** | 57.1 | | | | 83.3 | | | | | |
| | | | | | | 集計 | | | | | | | | | | |
| | | 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 | ①～⑥の項目で教員の肯定的な回答の平均が80%以上 | | ① | 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 | 100 | 96 | | -4 | 66.7 | 100 | | 33.3 | 教員と児童の差が一番大きかったのが、②だった。少人数ということもあるが、意見が出ない学年や、友達の意見を聞くだけになっていることも多い。 | 児童自身が友達の考えをもっと知りたいと思って子ども同士で話ができるよう、Qワードを使って話し合いの指導をしていく。 |
| | | | | | ② | 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。 | 71.4 | 100 | | 28.6 | 50 | 100 | | 50 | | |
| | | | | | ③ | 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している。 | 57.1 | 96 | | 38.9 | 66.7 | 100 | | 33.3 | | |
| | | | | | ④ | 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。 | 71.4 | 100 | | 28.6 | 66.7 | 100 | | 33.3 | | |
| | | | | | ⑤ | 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり，学びに対する達成感を得られたりしている。 | 71.4 | 96 | | 24.6 | 100 | 100 | | 0 | | |
| | | | | | ⑥ | 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。 | 57.1 | 96 | | 38.9 | 83.3 | 100 | | 16.7 | | |
| | | | | | | 集計 | | | | | | | | | | |
| | 学力の向上 | カリキュラム・マネジメント | 国語で学んだことを活用する場面を設定し、どんな力をつけたのかを実感できる「カリマネ」の項目の割合が90%以上 | | ① | 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。 | 85.7 | | | | 100 | | | | ・カリマネを見直し、職員室前に掲示することで意識して取り組めた。<br>・小中連携の情報交換の内容を、全職員で共通理解し意識して取り組めた。 | 引き続き継続して取り組んでいく。 |
| | | | | | ② | 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している。 | 100.0 | | | | 100 | | | | | |
| | | | | | ③ | 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。 | 100.0 | | | | 100 | | | | | |
| | | | | | ④ | 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携） | 86.0 | | | | 100 | | | | | |
| | | | | | ⑤ | 国語科を中心に行事、総合、他教科等と関連付けたカリマネを行っている。 | 85.7 | | | | 100 | | | | | |
| | | | | | | 集計 | | | | | | | | | | |
| | | 家庭学習 | 計画的に家庭学習に取り組んでいると回答した児童の割合が80%以上 | | ① | 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。 | 100 | 85.7 | | -14.3 | 100 | 85.7 | | -14.3 | ・持ち帰り日を決め、全学年で学習用端末を使い、家庭学習ができるようになった。<br>・高学年で計画的に家庭学習を進めることができない児童もいる。 | ・今後も学習用端末を使い家庭学習に取り組む。<br>・計画的に家庭学習を進められない児童には、一週間の見通しをもたせて取り組ませる。 |
| | | | | | ② | 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。 | 80 | 76 | | -4 | 100 | 92 | | -8 | | |
| | | | | | ③ | 低学年児童は、家庭学習の習慣が身についている。 | 100 | 100 | | | 100 | 91 | | | | |
| | | | | | ④ | 高学年児童は、計画的に家庭学習に取り組んでいる。 | 100 | 86 | | | 100 | 85.7 | | | | |
| | | | | | | 集計 | | | | | | | | | | |